

る。朱の回答は「天災なので、やはり無罪です」というものだった。

吉宗は刑法の各種文献を研究しただけでなく、朱佩章に同時代の中国における罪と罰の実情を問い質した。それらの結果、あやまって自宅から火を出した人々は厳刑を免れるようになったのである。

情け深い？ その一方で、放火犯が火あぶりの極刑に処せられたことをもお忘れなく。

「感動ポルノ」

との決別

乙 武 洋 匡
(作家)

昨年、メディアに「感動ポルノ」という言葉が踊った。

これはオーストラリアの人権活動家であるステラ・ヤング（故人）が二〇一二年に初めて用いた言葉で、彼女は障害者がやたらと感動的に扱われる現象について、皮肉をこめてこう呼んだ。日本では、昨年八月にNHK Eテレが放送した『バリバラ』という番組が、もはや晩夏の風物詩とさえなった感のある『24時間テレビ』について「感動ポルノである」と批判した。これまでもネット上では、「お涙頂戴」などと揶揄されてきた同番組だが、ここまではつきりと、しかも公共放送であるNHKによって否定されたのは、ある意味、画期的なことだったと言える。

じつは、何を隠そうこの私も「感動ポルノ」に苦しめら

れてきた一人である。幼少期から、褒められることが多くあった。歩く、食べる、字を書く——私としてはいたって普通のことをしているつもりだったが、周囲は「すごいね」「よくそんなことできるね」と褒めそやした。周囲は、と言っても、子どもたちではない。大人たちの話だ。

しかし、私はこれらの褒め言葉を素直に受け取ることができずにいた。私は、みんなと同じことをしているだけ。それでも褒められるのは私だけだ。なぜだろう。子どもながら至った結論は、「私が障害者だから」だった。人々のなかに、「障害者だから、きつと何もできないだろう」という前提や思い込みがあるために、私が周囲と同じことを

しただけで驚かれる。賞賛される。それは誇らしきや心地良さといった心境からは程遠く、「むしろ見下されているのではないか」という不快感にも似た心持ちだった。

そんな複雑なコドモゴコロを払拭するにはどうしたらいいのだろうか考えた結果、私が思いついたのは、有無を言わさぬ結果を残すこと。「みんなと同じ」程度だから、褒められてもモヤモヤするのだ。健常者と比べても、それを上回る結果を残せばいい。それなら、たとえ褒められても素直に受け止めることができるだろうと考えたのだ。だから、勉強を頑張った。だから、きれいな字を書いた。だから、モテたいと思った。すべては、「感動ポルノ」から

脱するために。

結果さえ出してしまえば、

「二時的に」忌々しい呪縛から逃げる事ができた。だが、それから十数年後、私はまたしても同じ呪縛に苦しめられることとなる。「五体不満足」が出版されると、私は瞬く間に世に知られる存在となった。これまで障害者に対して抱かれていたステレオタイプイメージを打ち破りたいたの一心で書いた本だったが、実際に打ち破ることができたのは、せいぜい「障害者≠不幸な人」といった図式くらいで、いくら私がやんちゃなエピソードを語っても、品のない下ネタを口走っても、露悪的に振る舞っても、世間がそこに見るのは「マジメで頑張り屋のオトちゃん」で、それは本人がいくら否定して

も、メディアも、読者や視聴者も、不思議なほど頑固だった。当初こそメッキが剥がれたときに浴びるだろう批判に恐怖して、「ボクはマジメな

生誕

眠らない惑星の目を閉じようとして夜は生まれかわり
《信のない愛》という完全な曇り空のしたでわたしは
見知らぬ恋人と愛し合っている

冬空が美しさにむかってゆがみはじめると

悲しみのすべてをふくむあたらしい夜が生まれる

すべての夜をふくむ悲しみが生まれおちる

真冬の樹木は

自分のもとを飛び去った鳥たちを最後から数えはじめ

わたしは見知らぬ恋人に届くことなく眠りに就く

崩すことができず、やがて疲れ果ててしまった。わかったよ。もう、いいよ。はいはい、マジメで、頑張り屋ね。何とかご期待に応えてみるよ

井上瑞貴

—。

まったくもって応えられなかったのは、みなさんご存知の通りである。応援してくださっていた方々を裏切っして

まった罪悪感、もちろんある。でも、どこかでホッとしている自分もいる。これで、ようやく感動ポルノという呪縛から解き放たれて生きていくことができるのではない。多くの人が障害者に対して抱いてきた「マジメで頑張り屋」というイメージをぶち壊すことになったのではない。もちろん、マジメで頑張り屋の障害者もいる。酒癖が悪い障害者もいれば、女癖の悪い障害者もいる。健常者にもいろいろなように、障害者にもいろいろな人がいる。ああ、そんな当たり前のことを説明するのに、人生の四十年も費やしてしまった。しやあない。気を取り直して再スタートするか。今度は逆に、マジメに頑張りてみようかね。